

早稲田大学 社会科学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	全問マーク式
試験時間	60分(現代文1問、古漢1問)
難易度	昨年比、難化

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「インターネットと民主主義」について。

出典:仲正昌樹『現代哲学の論点』。

《本文字数:約 4100 字＝昨年とほぼ同じ。設問数:10＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【漢字】a＝「培われた」、b＝「懐疑的」、c＝「糾弾」。紛らわしい選択肢はない。
問二	やや易	【空欄補充】前後の文脈から容易に判断できるだろう。
問三	標準	【理由説明】文章の冒頭から傍線部までの内容から判断する。ハは「ただ受動的…」以下が不適切である。
問四	やや難	【理由説明】二段落前と傍線部直後から、「皮肉な」(＝予想や期待に反する)事柄を捉える。ロが紛らわしいが、傍線部の次文の内容は、「このことによって…という問題も露わになった」とあることから、「皮肉な」事柄の結果として生じたことである。
問五	やや難	【文章整序】ホ→ハ→ニ→ロ→イである。「ハ→ニ」と「ロ→イ」の順序の判断が難しいが、ホ→ロよりもニ→ロの接続のほうが整合性があることから判断する。
問六	やや難	【理由説明】同段落の内容から判断する。特に直後の「むしろ有害でしかない。」がヒントになるだろう。イが紛らわしいが、「個人間の…同一視される」が不適切である。
問七	標準	【空欄補充】同段落の内容から、AIが、その端末と化した人間の欲望をどうするといえは適切か、を考える。
問八	やや易	【空欄補充】同段落の内容から、「逸脱行動を抑止する「アーキテクチャ」が「高度化」されると、少数派をどのようにすると表現すればよいか、を考える。
問九	やや易	【傍線部理解】直前の「「彼ら」のためになると思い込んで」がヒントである。
問十	標準	【主旨理解】消去法が有効だろう。ハは「AIに象徴…予想される」が71～72行目に反し、ホは「逸脱行動抑止…」以下が不適切である。

(二) 古文。出典:『東関紀行』。

漢文。出典:『晋書』卷三十四「羊祜」伝。

《本文字数:(古漢合計)約 1400 字＝昨年より約 900 字減少。設問数:13＝昨年より 3 問増加。》

小問	難易度	コメント
問十一	標準	【空欄補充】「①→④」のつながりを見抜く。
問十二	標準	【傍線部理解】「堪ふ」の意味、及び、前後の文脈から判断する。
問十三	やや難	【空欄補充】7～11行目の僧の発言がヒントになる。
問十四	易	【文法】「に」の識別。完了の助動詞「ぬ」の連用形を選ぶ。
問十五	やや難	【傍線部理解】傍線部のみだとハの意味になるが、直後の「いかなることかありけん、…」とのつながりを考慮するとロでとるのが妥当であろう。疑問の残る出題である。
問十六	標準	【主語判定】18行目以降の内容から判断できる。
問十七	やや易	【空欄補充】各助動詞の意味が分かっているならば容易に判断できる。
問十八	やや易	【文学史】本文内容から本文が紀行文であることをつかめば容易だろう。
問十九・(Ⅰ)	やや易	【空欄補充】前後の文脈から容易に判断できる。
問十九・(Ⅱ)	やや易	【返り点】訓読が示されているので容易だろう。返読文字「与」がポイント。
問十九・(Ⅲ)	標準	【傍線部理解】本文冒頭から傍線部までの内容もふまえて判断する。
問十九・(Ⅳ)	標準	【空欄補充】鄒湛が主人の羊祜の徳の話をしていることから判断する。
問十九・(Ⅴ)	やや難	【内容合致】ロが紛らわしいが、「時を経て忘却されている」が古文の20行目の「これも又…残らじ」に反する。現時点で忘却されているわけではない。

〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は、昨年より難化した。8年連続で漢文の設問が出題された。本学部は、04 年から 21 年まで融合文(現古融合文・現古漢融合文)を出題していたが、今年も出題されなかった。

大問一は、「インターネットと民主主義」についての評論文。昨年よりやや難化した。本学部は、13・14 年はクセのある出題だったが、15 年以降はスタンダードな出題が続いている。昨年と比べると、難しい設問が増えたが、基本・標準レベルの設問はしっかり得点しておきたい。

大問二は、『東関紀行』(古文)と『晋書』(漢文)。昨年よりやや難化した。本文字数は約 900 字減少したものの、設問が3問増えている。古文と漢文の学習をしっかりしてきた受験生は手ごたえがあっただろう。